

五、哈爾濱之戰

一、一般的概略

一月二十七日夏儀將軍ニ指揮セラルル吉
 林軍ト及吉林軍トノ間ニ甚ク起サシ夕衝突
 ハ哈爾濱市ト其ノ近隣地ニシテ混亂
 状態ニ陥レ及吉林軍カ行ツタ數々ノ
 残存行爲ニ依リ事能ハ甚大化シタ
 彼等ハ朝鮮人住宅ヲ掠奪シ日本人所
 有ノ新聞「大北新報」ノ事務所ヲ
 龍巖ト一日本陸將校ヲ殺害シ日本民間人ヲ
 大擄ト去リマシタ。哈爾濱市ニ於ケル日本兵
 留民ハ五千六百ヲ以テ數ヘラシタガ、
 極度ノ危險状態ニ晒シマシタ。日本兵
 留民在女員ハ之ノホ女員長ハ繰返シ陸軍
 兵力ノ派遣ヲ乞フ請ヒマシタ。實東軍
 司令官ハ事能ニ鑑ミ治安ノ維持ト

日本居留民^{保護}ハタメ遂ニ立是ヲ決シテ一部
隊ヲ派遣スルニ至リマシタ。

一、及吉林軍ハ依然トシテ傲岸不
遜ニ振舞ヒ日本側ニ対シテ何事憚ル所
ナク敵意ヲ示シマシタ。日本人ヲ官言ニ
授ケテ一更ニ戲カ行ハレ一更ニ立是ニ甘爾ナク
及日宣傳カ横行シマシタ。松花江亦ニ
鉄橋ハ我軍輸送妨ム者ノタメ燒落セシ
マシタ。雖又城堡土近部ニ攻テハ我先頭
部隊ハ武力抵抗ヲ受ケマシタ。事能
斯クナラバ、我軍ハ己ムヲ得ズ、敵對
行動ヲ取ルコトニナリ依テ哈爾濱ニ復入リ
ニ不降ニシテ居タ敵部隊ヲ掃テ蕩シマシ
タ。我軍ハ二月五日哈爾濱官軍ニ入城シタ
ノテス。

二、吉林軍ノ攻乃戰

滿洲問題 勃也元後ニ於ケル張子良ノ

失脚ハ同国三千多民衆興望ノ一新時代ノ
 先驅ヲ爲シテモテアリマス。時局ハ正義
 ト正道カ導キセラルル一國家ノ誕生ニ對
 シテハ急遽ニ成熟シテアツタリマス。吉林
 省ニ於キマシテハ百多犠牲ヲ其ノ自長トシ
 腐敗セシ旧機構ニ代フルニヨリ良キ新機
 構ヲ以テセルトスル目的ヲ、一新政府カ樹立
 サレマシク。住民ハ熱心ニ新政權ヲ記念ス
 旧軍閥下テ働イテ居タル者ノ中ニモ多ク
 ノ者カ新政權ニ誠ヲ折言フトエノ有様ヲ
 アリマシク。唯一ツ新政權ニ吉林カチカツタモノ
 ハ以テ明旧政權ニ於テ一トニ在リク。張作相將軍ノ指揮下ニ
 在リ。是ノ軍人連ハ依然一北支ノ張學
 良ト張作相カラ命令ヲ受テハ哈爾濱ノ厦
 ノ北東ニ當ル一重要ニ臨時政府ヲ樹立
 シテ吉林ニ於テハ新政ニ行カラノ命令ハア
 拒否シマシク。再々再々訓諭スル新ア

タカ、彼等ノ忠誠ヲ得ルニ至ラス。吉林
政府ハ遂ニ武力ニ訴ヘルノハ未儀ナキニ
立テ至エタノデアリマス。

吉林政府ノ陸軍部隊ハ一月五日ニ
行動ヲ起シ、其ノ進撃ヲ北ニ向ケ
タカ僅カク抵抗ニ遭フタガテアラス。タ
カ上列ノ所敵軍ヲ掃蕩シ、一月十八日
榆樹ヲ占領シマス。ソコテ彼等ハ北滿
洲ニ於テ政治的、經濟的、活動ノ中心
タルトシ、又之ヲ通シ、中心ヲモアシ、哈爾濱
ノ方向ニ其ノ眼ヲ注イタヘテス。

事態ハ斯ク進展シタノニ驚愕シタ

哈爾濱實業家及吉林派ノ連中ハ陽

議ノタメニ會ハセタリマス。議長ノ誠允ヲ陰

イテハ、李振唐、馮占海、木子杜、蘇德臣

ト云フタ事案、上総テノ指道寸者、遂ニ並ニ

他ノ者、遂ニハ夏攝ヲ代表スル CHEN HSUAN-WU

ト協議ノ上、次ノ二項ニ関スル決議ヲ採択

セマシム。

(一) 張作相ノ部隊ハ自夏議ニ降伏シ、夏議

ハ彼等ニ軍費ヲ供與スルコト。

(二) 寶豊縣政府ハ廢止スルコト。

此等ニ於テ張作相將軍ハ之ヲ固キ一月

二十日議ムル並ニ張作相授ニ命ヲ及元シ、

事情斯クノ如クナレハ、兵カハ黑龍江省

長張景惠將軍ノ指揮ト入リ、一乃

寶豊縣政府ハ之シ又張景惠將軍ノ統

治スルハ一國實行特別地ニ指揮ニ從フ

可キトト宣言スルヤ、ク命ビテテアリマス。

張作相カ斯クノ如キ人ト命ヲ及元シ、夏議

固カ黑龍江省長ノ名ニ於テ彼ノ從來ノ

軍隊ヲ維持セトスルニ在リ、コトハ何等

疑フノハ土地ナク極メテ明白デアリ、

併シ平和的解決ニ對スル一切ノ努力モ失

敗北ノ事トシテ誠ニハ武力解決ヲ決意
スルノ事トス。ソコニ彼ノ軍隊ハ一月三十一日
再々行ハルヲ起シ、一部ハ雙叉城堡ヲ
經テ哈爾濱ニ向ヒ他ノ一部ハ阿城ヲ
經テ進軍シタノテアリマス。

三、哈爾濱ニ在ル状況

吉林ノ軍ハ甚ク其ノ進軍ニ對スル如
ク言ハ何事モ受ケマセシテシテ。彼等ハ拉林
ヲ占領シテ馮占海指揮下ノ敵ヲ掃
蕩シニ日後ニハ阿城ノ近郊ニ達シマシ
タ。一月二十五日ニハ哈爾濱ニ達
シマシタノテ、翌日ハ哈爾濱市ニ入城ノ
計畫ヲ以テ軍ノ一部ヲ阿城ノ周ニ並
ニ雙叉城堡ニ至ル諸地ニ掃蕩シ向ヒマ
ノテアリマス。

然レニ軍事行動ノタメニ市中ニ混亂ガ

起ルコトヲ予ノ想ヒタノテ吉林軍人及吉
 林軍指揮下ノ丁超ニ使者ヲ送り、彼ノ
 部隊ヲ市中カラ賓州方面ヘ移シ、勿スレ
 カウ、西女ホトタノテアリマス。カ、丁超ハ之ニ應
 スレコトヲ拒不口シマシタ。反対ニ哈爾濱省ノ
 北東ニテ、料ノ一地上、依甘蘭ニ駐屯スル
 二十四旅團長李杜ハ一月二十ニハ朝、如
 白ラキ兵ニ、哈爾濱大隊ノ先頭、コニシテ、哈
 爾濱省ノ中華街 (Puchiatien) ニ入リマシ
 タ。丁超並ニ「シンゲンチヤン」 (Haining
 Chan-ching) 指揮下ノ兵士ト、哈爾濱省ノテ
 紋子ハ向テ、中華街ニテ、制御シ、時
 ヲ移シ、控奪ヲ勿メタノテ、ハ、全市ニ、恐
 慌ヲ来タシ、タノテ、ア、リ、マス。本邦人、四千、朝
 鮮人、十、ニ、ツ、百、カラ、我、レ、ハ、本、居、民、ハ、急、ニ、北
 出、テ、ハ、危、険、ニ、晒、シ、マ、シ、タ。日本、居、留、民、ハ

早クモ右軍態之不奮起し、日本内地は防衛、
 タメ義勇隊ヲ組織し、邦人ノ中華街
 ヨリノ避難ヲ援助シマシム。一名ノ日本人
 ト三名ノ朝鮮人ハ避難甲丁起軍ノ
 兵ニ殺害セシ數名ノ朝鮮婦人ハ奪手に
 去ラレマシム。

コレヲテ隱忍シテ居タ吉林軍ニ哈爾
 ウ魯ニ於テハ斯クノ如キ混乱振リテ且撃手
 シテハ且取早コレ以上ニ産現スルコト能ハス、
 全上中ヲ混乱ヨリ救フタメ進撃ヲ再開シ
 丁起、李子杜、及び張作授、軍ト中華
 街ノ事ヲテ戦闘スルニ至ツタノデス。哈爾

魯ニヤ内外ノ状況、特ニ日本居留民ノ安
 否ニ関シ復査ノタメ飛來セシ一日本復
 査主機ハ機内故障ノタメ哈爾濱復査事ノ
 畑ニ不時着ハ余儀ナキニ至ツタノハ此時ヲ
 アリマス。搭乗ノ清水砲兵大尉ハ丁起軍

ニ属スル騎兵ノ夕メ殺サレマシク。一軍ノ派
 ココニ於テハ爾等ノ責ニ及ビシ我乃正式
 代表者ハ馬占山將軍ハ一月二十七日同市
 ニ到着シ一乃吉林並ニ張景惠ノ軍ト
 他乃反吉林ノ軍トノ間ニ調停ノ方ヲ執ル
 ント申出テニ居タレテ、同將軍ニ斡旋
 スヲ依頼シマシク。我頃ニ奉將校並ニ居
 留民ノ殺害者ヲ馬將軍ニ通報シ、丁
 起上ニ張作樞麾下ノ兵ハ本件ノ関シ
 以嚴四訓サレリキモノナルニ依リ、馬將軍ノ
 重大ノ立見乃ヲ要請シタレテアリマス。
 然ルニ同日夜半日本入経路各ニ侵入シ
 「大北新報」ハ中国兵ノ龍襲撃ヲ受
 ケ、控奪ヲ蒙ツタレテス。而シテ混乱ハ
 中華街ニ於テ公然ト一悪化ヲ来シマシク
 一月二十八日中国商業會議所及ヒ其他

ノ中国側諸機關ハ世々日本軍ノ派
遣スヲ乞請シタノデアルラス。

哈爾濱之實ニ於テハ日本居る民ハ統領
事ヨリノ指令ニ依リ一月二十八日町内振
定機關新ニ集合ヲ開始シ、自衛ノタメ
義勇隊ヲ組織シタシタ。 Puchiatien
ニ於テハ千五百名以上ノ朝鮮人ハ河解近
クノ十學校ノ境内ニ在リテ保護ヲ受ケル
コトニナリタシタ。

四 關東軍北部行動

關東軍ハ中国兵ガ戰場ヲ敗ルト掠奪者ニテルモ規律性ガアルコトヲ
ヨリ知ツキキリテ日本住民保護ノタメ歩兵ニ隨大隊カラ成ル長谷部
少將指揮ノ部隊ヲ派遣スルコトニ決定シタリ。

ソノ時先ゾ最初ニ出逢ツタ困難ハ鉄道輸送ヲアリマス。東支鉄道ノ南
部支線ノ職員達ハ殆ド全部ソノ職場ヲ捨テキコシタ。更ニ吉林官
憲ハ自身ノ鉄道護衛部隊ヲハルビニ輸送スルタメ多數ノ車輛ヲ
抑留シテキコシタ。不意ノ逢逢ハ以上ノ事情ソノ他ニヨルモノテ一月二十日ノ

夜ニ至ッテ初ミテ鹽機ノ処置トシテ遂ニ三列車ガ編成ナレテ北方ニ
迴送セラルル次ニ彼等ノ進軍ハ東支鉄道南部支線ニ沿ッテ駐屯

中ノ中国兵ニ恐固ノ一部ニ妨害セシメシタ。コト恐固ハ我軍ノ出タヲ邪

麻鬼セントシ、輸送ヲ更ニ遲延セセシタ。應急修理ガ相立日出来コシタ。又

軍用列車ハ河ヲ渡ッテ進マシタ。松花江ニ架ツキル第二橋梁ヲ一月二十日爆破シ

一方吉林軍ハ砲臺ガハルビニ市民ニ身ハ損失ヲ考慮シテ亦カテ少シ

離レテ所ニ退キ一時花砲ヲ見合セコシタ。シカシ更ニ吉林軍ハ匪賊ヲ徹

集メテ軍隊ヲ増員シ急襲セシタ。ソノ軍隊ハ着々トハルビニ附近ニ

集メ中セテチリソノモカ部隊ヲ市ノ南西端カラ旧市街ニ至ル線ニ駐屯シ

ル一方他ノ部隊ハハルビニ東側ニ陣取リシタ。彼等ハ日本側ト武カ闘争

ヲ又用意ガ出来クトイフコトヲ公然ト宣言シタ。彼等ノ明瞭ナ氣勢ガ及ビ

大膽ナル行動カラ、戦斗ハ目前ニ迫リ避ク難イト思ハレタシタ。關東軍

司令官ハ百二十九日ヲニ師團長多内中將ニソノ部隊ヲハルビニ進軍セ

後地ノ日本住民ヲ保護スルヤウニ命令シタシタ。長谷部少將ノ率キル派遣
隊ハ打撃ヲ鉄道ノ困難ヲ克服シテ
北部ニ進軍シ遂ニ一月二十日ノ午後五時ニ雙城堡ニ到着シ、ソノ夜ヲ

② 明シシタ翌朝早ク夜明方ニ敵ノ部隊(其ニ強固至カ)約二千名ノ
歩兵及若干ノ砲兵ハ夜陰ニ集リテ我が兵舎ヲ襲ヒシヲ彼等ハ我
ノ居ル場所カラタツタニ米以内ニ時進ミヨリシヲカ、激シク今戰ハ後
午前十時ニ分損大損失ヲ蒙リテ東退サレシメソノ中ノ部隊ハ殆ド
全滅シタリ。我が方ノ死傷者數人四戰死十三名、負傷者三十五名ナリシヲ。
抵抗ノ性質見テ予想ニ關東軍司令官ニハ、人心懸念ノ部隊ニハ
此ノ附近ノ部隊ヲ援即スルヤウ命令ナリシヲ。

一月二十日、關東軍ハ四取後通煤ヲ下越、李杜、李振吉ノ他ノ支
吉林軍指揮官宛電シ、ソノ日朝ノ彼等ノ改東行爲ヲ非難シ忠
順ノ證據トシテ下野ニ示ルヤウニ要求シタリ。又ソレニ應答シテ、場合ニ
關東軍ハ全支吉林軍ヲ敵トシテ取扱フコトヲ通告シタリ。同時ニ又
支吉林軍指揮官達ニ示シ、ソノコトニ對シテ、日本側ニ同欽道ノ權利
輸送ヲ何等好マシコトヲ承諾シタリ。又日本側ニ同欽道ノ權利
ヲ侵シテシテトクコト及支吉林軍ニ對シテ、亦同欽道ニ關シテ、輸送
ヲ引起スオソレハ、行動ヲ止メヤウニ警告戒スバキコトヲ通告セリ。

コトヲ知
四取初段各部隊遺隊ノ輸送ニ不利ナ態度ヲ示シ、東支欽
道ノ處理ニ關シテハ、我が軍ハ唯ハハルピン在任ノ我が國民ヲ保護スル
トイフコトヲ目的トシテ、進出スルノコトヲカウ、我軍ノ輸送ヲ妨グルヤウ
ニトイフコトヲ通知スルコトヲシテ、代表隊ハ一月三十日ニ公
式同意ヲ示ヘシメ、ソレモ尚鐵道ハハルピン鐵道保護間及長谷
部隊ノ後方ニ於テモ、爆破破サレ、我部隊ノ北方進軍ヲ著ルシク阻害
シタリトシ、事情ノ下ニテ、師團ハソノ自由ニテ、限ラレタ電ノ車輛ヲ
用ヒテ、四取進軍ヲツクシタリ。しか、二月四日カラハ、長谷ニ進軍結セリ、ソノ日、動
車ヲ及テ、運ビ、妨メ、ソノヤウ不利ナ狀態ニテ、ソノ以前進軍ヲ續ク。

③ 五カ部隊ハ百廿午前雙又城堡附近ニ集集結ヲ完了シタ
ハルピンハ軍隊ヲ派遣スルニ関シテ、関東軍ハ左ノ聲告示ヲ百廿一日ニ完
シタ

日本軍ハ唯我が国民ヲ保護セシ、同市ノ安寧ヲ維持スル目的ノ以テ、
ハルピンニ派遣セシタリ。一般市民ノミナシテ軍関係者モ我軍ニ対シ敵
対行動ヲトラス限リハ東結セランコト也。一般庶民ハ安シテ平和的業
務ニ従事セシコトヲ勧告ス。鉄道ソノ他、第三國ノ所有スル施設ヲ
ニ関シテ、日本軍ハ四廠正中ニテハ能ハ度ヲトリ干渉セズ。日本軍ハ右ニ述
ク正義ト公正ノ政策ヲ忠実ニ行フモ、尤モ、敵科行動及日本軍ノ仕事
ヲ妨害セシトスル企テニ対シテハ速カニコトヲ処理スルモノナリ。軍人並ニ一般
人ニ対シ、日本軍隊ヲ信頼シ、之ニ順應シ、適當ナル行動ヲトヤウ
ニ勸告スルモノナリ。

日本軍司令部

204-3

五、^{ハルビン}哈爾濱ニ於ケル反吉林軍一準備周到

第二十四旅團司令官木子杜將軍ノ指揮下ニ在ツテ「自衛軍」ト自稱シタ^{ハルビン}哈爾濱市内及ビ周辺ニ陣取ツタ反吉林軍ハ一月三十一日一種ノ最後通牒トモ見做サレ得ル布告ヲ發シタガソノ内容ハ次ノ様ナモノデアリマシタ即チ

『内乱ヲ助長・煽動スル日本側ノ行動及彼等ニヨル鉄道列車ノ拿捕又ハ列車勤務員ノ殺傷等ハ日本側ガ我國威ヲ傷ケ暴力的方法ヲ以テ進ンデ弁タ經過ヲ示スモノナリ吾々ハ連合シテ抗戦セシガ為ニ役立ツ軍隊ハスベテ勤員スベク決意セリ。吾々ノ目的ハ明瞭ナルヲ以テ吾々ハ事ノ成否ハ意ニみセズ。吾々ハ茲ニ自衛軍ノ編成ヲ布告シ全同胞ノ支援ヲ願フモノナリ』

其ノ間張學良ハ丁超及馬占山ニ哈爾濱ヲ掌握スル様命令スル一方「モスコ」ニ居テ「ソ」華交渉ニ當ツテ弁タ莫德惠ヲ通ジ「ソヴェット、ロシア」ノ支援ヲ得テ彼自身ノ地位ヲ強化セント努メマシタ。他方少數ノ人員ヨリ成ル賓縣政府ハソノ地理的位

置が行政目的ニ不向キテアルコトヲ知リ哈爾濱ニ彼等
ノ所謂吉林保安委員會ヲ設立シタ。一人ノ下ニ
内部的結束ヲ得テ我國ニ立向フ目的デ「ティンチ」
ガ委員長トシテ軍事、行政、財政、事務統轄
ヲ命ゼラレマシタ。「ティンチ」ハ我軍ガ「チチハル」カラ
東進スルコトヲ豫期シテ東支鉄道西部ノ守備隊
ニ対シ其鉄道ヲ破壊スル様命ジマシタ。其結果
二月二日ノ夜哈爾濱「チチハル」間ノ鉄道及其他
連絡ガ切斷サレマシタ。

我陣地ノ後方デハ双城舖ノ南方約二十五料ノ拉林
家ニ居タ鉄道守備隊（獨立鉄道守備隊ノ一中
隊）ガ二月一日一〇〇〇名ノ中国軍ニヨリ襲撃サレ
マシタ。其翌日長春ヨリ約七〇料北ニアル張家灣ニ
居タ我守備中隊ガ四〇〇ヲ數ヘル中国兵ニヨリ攻
撃ヲサレマシタ。攻撃軍ハ其都度大損害ヲ受ケテ
撃退サレマシタ。

二月三日頃ニハ着々兵力ヲ增強シツ、アツタ哈爾濱
周辺ノ反吉林軍ハ約一三〇〇〇名カラ一四〇〇〇名ノ兵力

一軍隊ニ膨脹シテ并マシタ。ソレヲ其兵力ハ五四頁ノ
略圖ニ示シテアル如ク配置サレテ并マシタ。

右翼地區(顧郷屯周辺)約一〇〇〇名野砲六門。

中央地區(「インテンダンスカヤ」ト病院街ト中間)約三〇〇〇
名砲二門陣地前ニ鉄條網防禦工作ヲ施シタ住宅

左翼地區(旧哈爾濱市街周辺)約七〇〇名砲

四門

騎兵隊、馮占海指揮下ニアル騎兵數百名。

以上合セテ約二〇〇〇名が第一線ヲ構成シテ并マシタ。

豫備軍ニ〇〇〇名乃至三〇〇〇名ヲ數ヘル豫備軍が
哈爾濱ノ東方及旧哈爾濱附近ニ在ル馬家溝
ニ駐屯シテ并マシタ。

六、第三師團ノ哈爾濱入城

二月三日朝双城舖附近ニ主力ヲ集結シテ并タ第二
師團ハ機ヲ失スルネトナク直クニ北進シマシタ。

途中我方ヨリ兵力少キ敵軍ヲ壓迫シツツ我軍ハ

夕刻双城舗ノ北約五〇米ニ在ル「ウエイタシコウ」河ノ
線ニ到着シ其所テ夜ヲ過シマシタ。

翌朝又北進ヲ開始シテ師團ハ午前十一時頃
敵陣ニ接シマシタ。午後三時半ニ吾々ノ目標ハ
敵陣ノ中心ヲ成ス「パイチヤウーポング」及病院
街ニ置カレマシタ。ソシテ我軍ノ一部ハ其位置
ヨリ四〇〇米乃至五〇〇米以内ヲ前進シツツ敵
右翼ニ対シ行動ヲ開始シマシタ、ソシテ其所
テ夜ヲ過シマシタ。

同夜師團ノ今一部ハ夜襲ヲ行ヒ病院街南
端附近ニアル露国トノ戦争ノ際ノ二人ノ日本ノ
英雄ノ記念碑ノ近クノ敵陣地ノ一部ヲ占
據シマシタ。

第三師團ハ二月五日ノ朝攻撃ヲ再開シマシタ。
午前十時頃敵陣ガ動揺ノ色ヲ見セ始メタ時、
我軍ハ攻撃ヲ強化シ遂ニ正午頃敵陣ヲ奪

取シマシタ。午後三時頃敵軍ハ全ク敗レ哈爾賓
カラ濱江其他ニ向ヒ逃走シテ来マシタ。

哈爾賓市ニハ平和ガ回復シマシタ。日本居留民
ハ恐怖ヨリ解放サレマシタ。彼等ハ露西亞人及
中国人サヘトモ一緒ニ衷心ヨリノ歡呼ヲ以テ我
軍ノ哈爾賓入城ヲ迎ハルタメ出テ来マシタ。

右ニ関シ注目スベキ事ハ我軍ガ本作戰遂行ニ
當リ外國居留民ニ対スル妨害ヲ防止スルタメ有ラ
ユル注意ヲ拂ヒ同市ノ鉄道及其他公共施設ヲ避
ケル為ニ慎重ナル注意ヲ以テ銃砲火及其他ノ有
ラユル攻撃的行動ヲ指揮シタ事デアリマス。

自衛軍ハ哈爾賓ヲ放棄シテソノ主力ヲ濱江
ノ方ニ移動シマシタ。

敵軍ノ一部ハ哈爾賓ノ北ニアル呼蘭迄モ行キ他ハ
哈爾賓ノ南ニアル阿城ノ方向ニ行キマシタ。

管中海指揮下ノ一獨立分遣隊(從屬ノ馬賊兵)ハ

進路ヲ阿城ノ方向ニ取リマシタ。一超ト李吐ハ呼蘭
ニ馮占海ハ賓縣ニ引退ツタモト考ヘラレマス。其
所テ彼等ハ疑ヒナク敗走シタ兵ヲ集メテ居ルト思ハレマス。
二月四日カラ五日間續イタ哈爾賓附近ノ作戰ヲ
通ジ我方ノ損害ハ戦死三名負傷六五名デアリマシタ。
敵側ノ死傷ハ確定的ニハ分リマセンガ彼等ハ疑ヒナク
吾々ヨリモ相当大ナル損害ヲ蒙ツタト思ヒマス。
本作戦ノ展開ハ五六頁ノ略圖ニ示シテアリマス。

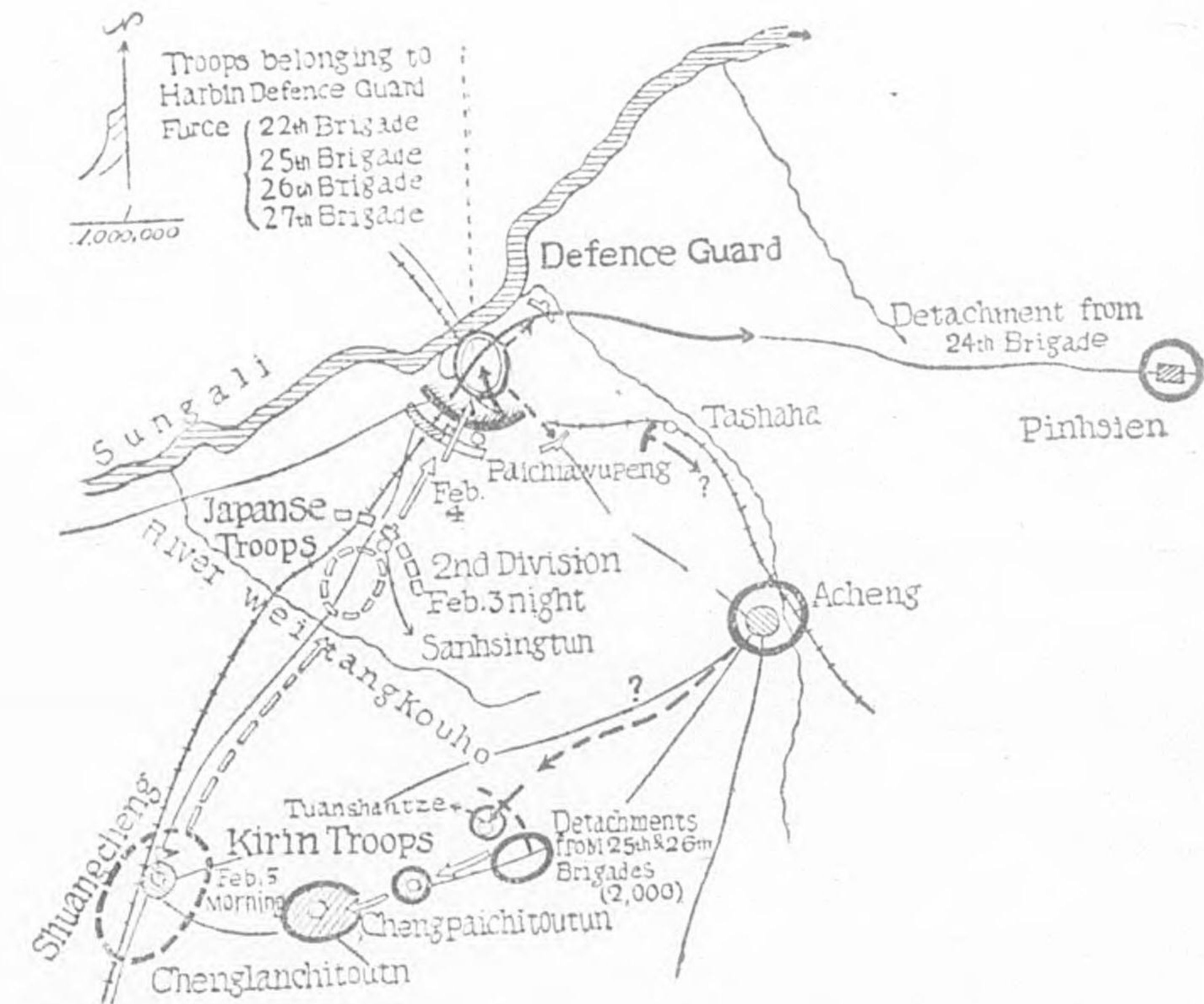
七、結論




前記ノ軍事行動ヲ必要トシタ哈爾賓ノ紛争ハ哈爾
賓ヲ中心トスル中国軍部内ノ内訌ニヨルデアリマス。
其紛争ハ滿洲ガソノ軍事的及他ノ有力トシ要
素ノ支援ヲ受ケテ旧政權ガ追放サレタ遼寧再吉
林、黑龍江及蒙古ノ一部カラ成ル新獨立國建設
ノ道ゾナヘラナシマシタ。斯ク惹起サセラレタ紛争
ハ我國民ノミナラス諸外國居留民ハ生命財産ヲ
脅威シマシタ。但シ紛争ハ我軍ノ迅速ニシテ時ヲ

得々行動ニヨリ終リテ告ゲマシタ。又見方ニヨレバ前
記作戦ハ北滿ヨリ残存シテキタ旧軍事カヲ一掃
スルニカアツタワケデ斯クシテ将来ヲ警戒シテ兩分
圍氣ヲ實質的ニ淨化シ新國家誕生ニ邪魔
トナツテキタ妨碍物ヲ除去シタノデアリマス。

最後ニソソグイェットロシアト其代表者が東支鉄道
ノ運送ニ當リ、日本ノ正当ナル攻撃ヲ正シク認識シ
テ哈爾濱周辺ノ我軍事行動ニ對シ公平ナル態度
ヲ示シタ事ヲ附言スルモトハ吾々ノ喜ビトスルモノデアリ
ス。

Chart showing Military Operations near Harbin
(Feb. 3-5 1932)



Notes	
	Feb. 3 night
	Feb. 4
	Feb. 5